

- 1面：八丈島災害派遣・千鳥ヶ淵戦没者慰霊祭
2面：師団訓練検閲（1普連）・秋季演習場整備（32普連）
3面：突入小隊指導者集合訓練（34普連）・連隊訓練検閲（1後支連）
4面：体力検定競技会（1高大）・大隊訓練（1施大）
空路潜入訓練（1飛行）・王子コンサート（1音）
5面：埼玉県自衛隊殉職隊員追悼式（1偵戦大）
八丈島災害派遣（1通大）
米陸軍CBR学校訓練（1特防）・付隊長着任行事（1師付）



令和8年1月25日 第32号

師団長統率方針「任務完遂」
師団長要望事項「一生懸命」

陸上自衛隊第1師団広報紙

発行：第1師団司令部総務課広報班
賛助：第1師団懇話会
所：東京都練馬区北町4-1-1
電話：03-3933-1161（内線2150～2157）
専用線：8-31-2156

台風22・23号

八丈島における災害派遣活動

第1師団生活支援隊により給水・給食・加水入浴支援



空自C-2輸送機により空輸された水タンク車



12旅団の12ヘリに空輸された入浴セットの卸下を共同で行う1後支



源泉を活用した加水入浴支援



地元保育士と協力しての給食支援



海上保安庁艦艇からの取水



現地災害対策本部会議

令和7年台風第22号の接近に伴い、東京都八丈町（八丈島）では浄水設備が損傷し、医療機関で使用する透析用水の不足が懸念された。この状況を受け、10月9日21時13分、東京都知事から海上自衛隊横須賀地方総監に対して給水車等の輸送支援に係る災害派遣要請が発出された。さらに台風23号の接近に伴い、さらなる被害拡大の恐れがあったため、11日12時42分、陸上自衛隊第1師団（練馬・東京）に対しても生活必需品及び支援物資の輸送に関する派遣要請が行われ、同時刻これを受理した。（関連③面）

師団は直ちに態勢を確認するため、10月9日に東京都庁へ2人の連絡員を派遣し、情報収集を行った。台風23号接近前の11日には、八丈町役場に師団司令部及び第1後方支援連隊から計17人の連絡員等を派遣し、現地対策本部や自治体との調整を通じて、円滑な活動統制及び情報共有を実施し、1後支連を主力として、航空自衛隊及び東京都と緊密に連携し、物資輸送及び給水支援活動を展開した。

12日には1後支連の大型車両によって、大田区および立川市に備蓄されていた支援物資（段ボールベッド、携帯トイレ、毛布、ブルーシート等）を航空自衛隊入間基地まで輸送し、航空自衛隊第3輸送航空隊（美保・鳥取）のC-2輸送機1機により、物資を八丈島へ空輸した。14日には東京都港区で準備された組立式仮設給水槽20基および1後支連の水タンク車1両、師団司令部付隊の小型2両及び支援物資等を入間基地へ輸送し、同日、再びC-2輸送機により八丈島へ空輸した。現地に到着後、生活支援隊（隊長：1後支連隊長 後川1佐）は、直ちに給水活動を開始し、地域住民の生活を支える

重要な水資源の確保に寄与した。15日からは八丈町役場の要請に基づき、1日約1000食規模の給食支援を開始した。限られた資材と人員の中で効率的な炊事体制を構築し、被災住民への温食提供を実施した。18日には、第12旅団の第12ヘリコプター隊（相馬原）がCH-47Jを運用し、1後支連が準備した入浴支援セットの一部を八丈町へ空輸した。町営温泉施設「ふれあいの湯」の設備と自衛隊の入浴設備を組み合わせたことで、初の温泉施設連携型の「加水入浴支援※」を実施した。この取組は

災害対応における新たなモデルケースとなった。今回の派遣活動では、輸送経路が海路及び空路に限定される離島特有の環境下において、物資集積から輸送、現地配分に至る一連のロジスティクスの調整に大きな難しさがあった。また気象条件の急変や通信環境の制約も加わり、現地支援態勢の確立には高い即応性と柔軟な判断が求められた。この経験を通じて方面は、離島災害における初動対応や連携調整の課題を明確化し、今後の対応能力向上に資する多くの教訓を得た。今後は関係自治体及び関係機関との協議を通じ

※温泉施設連携型の「加水入浴支援」とは、町営温泉施設「ふれあいの湯」の源泉は約58℃と高温のため、そのままでは入浴が困難であった。このため、自衛隊が輸送した水をポンプで加温し、湯槽に投入して使用できるようにした。このシャワーの設備は、自衛隊が輸送した水をポンプで加温し、湯槽に投入して使用できるようにした。このシャワーの設備は、自衛隊が輸送した水をポンプで加温し、湯槽に投入して使用できるようにした。

て、事前調整の在り方や空輸・海上輸送の連携態勢をさらに強化し「どのような環境下でも、確実に国民を支援できる態勢」の確立を目指す。

平和への誓いを胸に

千鳥ヶ淵戦没者墓苑秋季慰霊祭



師団は10月17日に行われた令和7年度千鳥ヶ淵戦没者墓苑秋季慰霊祭において、第1普通科連隊を基幹とした陸・海・空自衛隊合同部隊による部隊参列および部隊拝礼を実施した。（写真）

慰霊祭はご遺族をはじめ、秋篠宮皇嗣同妃両殿下をお迎えし、政府高官、各国駐日大使・駐在武官、統合幕僚長、陸・海・空各幕僚長など多くの関係者が参列のもと、厳粛に執り行われた。

陸・海・空自衛隊合同部隊として参列した30名の隊員は、航空自衛隊音楽隊による「国の鎮め」の演奏の中、先の大戦で尊い命を捧げ、今日の平和の礎となられた戦没者に対し、鎮魂の捧げ銃を行い、静粛にその使命を果たした。

参列した隊員からは「先の大戦で亡くなられた全ての戦没者への追悼の誠を示すために臨んだ」「今の平和を築かれた方々への感謝の気持ちに胸に、心を込めて捧げ銃を行った」などの声が聞かれ、それぞれが深い哀悼の意をもって式典に臨んだ様子がうかがえた。

師団は、先人たちの尊い犠牲の上に築かれた平和の意義を胸に刻み、引き続き国民の安心と安全のために、その責務を全うしていく。

師団は10月17日に行われた令和7年度千鳥ヶ淵戦没者墓苑秋季慰霊祭において、第1普通科連隊を基幹とした陸・海・空自衛隊合同部隊による部隊参列および部隊拝礼を実施した。（写真）

慰霊祭はご遺族をはじめ、秋篠宮皇嗣同妃両殿下をお迎えし、政府高官、各国駐日大使・駐在武官、統合幕僚長、陸・海・空各幕僚長など多くの関係者が参列のもと、厳粛に執り行われた。

陸・海・空自衛隊合同部隊として参列した30名の隊員は、航空自衛隊音楽隊による「国の鎮め」の演奏の中、先の大戦で尊い命を捧げ、今日の平和の礎となられた戦没者に対し、鎮魂の捧げ銃を行い、静粛にその使命を果たした。

参列した隊員からは「先の大戦で亡くなられた全ての戦没者への追悼の誠を示すために臨んだ」「今の平和を築かれた方々への感謝の気持ちに胸に、心を込めて捧げ銃を行った」などの声が聞かれ、それぞれが深い哀悼の意をもって式典に臨んだ様子がうかがえた。

師団は、先人たちの尊い犠牲の上に築かれた平和の意義を胸に刻み、引き続き国民の安心と安全のために、その責務を全うしていく。

1普連

第2次師団訓練検閲任務完遂

一人一人の力を結集して団結、敵を粉砕

連隊は10月22日から26日までの間、東富士演習場等において連隊検閲を受

関した。

連隊長（篠部1佐）は、要望事項『Cohesi on/Smash』（一人一人の力を結集して団

結、敵を粉砕）をスローガンに第1偵察戦闘大隊戦闘中隊第2小隊の配属を受け、第1飛行隊と協

同し対ゲリラ・コマンドウ作戦を実施した。状況開始以降、敵が潜伏している見込みと見られる地域を迅速に特定する

に居住する住民の安全確保・避難誘導を実施し、防護施設の守りを固めた。突入部隊は機会を慎重に見極め、敵勢力が潜伏している施設に対し煙幕を活用し多方面から一挙に突入を開始、我の損耗を最小限に短時間で敵を制圧、敵潜伏施設及び地域の安全化を実施し任務を完遂した。

新島・式根島の離島防災訓練

連隊は11月10日から11月19日までの間、新島及び式根島において東京都が主催の離島防災訓練に参加した。本訓練は、日米豪の連携強化を目的とした訓練の一環で実施され、救出救助訓練では、航空自衛隊警備犬・東京消防庁・各消防団・警視庁と連携し民間施設機材を活用した救助訓練を実施した。（写真左）



煙幕を活用し突入する隊員



敵潜伏施設及び地域の安全化を実施する隊員



救出救助訓練の様子

方面選考各部門で好成績

国内における射撃競技会（JISSAM）

連隊は9月28日から10月2日までの間、東富士演習場で実施された方面射撃競技会に師団選考で選ばれた隊員が参加し、東部方面隊の代表の座を競い合った。

分隊射撃の部では各師団旅団で選考された11個分隊で方面代表の座を競い

方面選考結果

合い第1普通科連隊の分隊が見事優勝と3位に入賞した。

個人射撃の部においても各師団旅団で選考された11個分隊の中から種目ごとに11名が抽出され種目別の方面代表の座を競い合

▼部隊射撃の部
分隊射撃 優勝・第3位

▼個人射撃の部
狙撃 優勝
小銃 優勝・準優勝
機関銃 優勝・準優勝



各部門で方面代表になった隊員

32普連

各部隊のチカラを結集させ任務完遂

令和7年度秋季北富士演習場定期整備

連隊は、北富士演習場において、令和7年11月6日から11月14日までの

間、令和7年度秋季北富士演習場定期整備を実施した。今年度は第32普通科連隊が担任部隊となり、

土整備隊長として指揮を執った。本演習場定期整備は作戦遂行能力を向上させるための基盤を確立



整備隊長を囲んで任務達成の喜びを表す隊員たち



手りゅう弾投てき場の整備を行う様子

する重要な任務である。整備隊長は北富士整備隊長（連隊長）を核とし師団隷下から第1施設大隊（副整備隊長）、第1後方支援連隊、第1高射特

科大隊、第1偵察戦闘大隊、第1通信大隊及び第1特殊武器防護隊、方面直轄部隊である東部方面

今回の整備は、東富士演習場との連接経路の増設、排水設備の整備、機道路の整備、訓練設備の整備、管理設備等の整備と多岐にわたる整備を実施した。本定期整備間、整備隊長が緊密に連携し、各部隊の特性・能力に

効率的・効果的な整備を実施し任務を完遂した。また、各級指揮官の安全管理の徹底により各隊員一人ひとりが高い安全管理意識を保持し、万全な安全管理態勢を確立し、整備を実施したため、整備に起因する大きな事故もなく無事に終了した。

「料理の鉄人」方式で炊事競技会

第5中隊が優勝



富士を背景に調理を実施



優勝した第5中隊

連隊は、演習場整備の場を活用して令和7年11月11日、北富士演習場において令和7年度炊事競技会を実施した。競技要領は、過去にテレビで放送された「料理の鉄人」方式。数日前に示された食材に基づき各中隊ごとに自由にメニューを決定し、競技場で調理して勝敗を決する要領で実施した。そのため単なる調理技術のみならず、献立作

成、作業工程、衛生管理、そして炊事班の連携が重要となった。

【炊事競技会を終えて】優勝できたのは味の濃さに徹底して向き合ったからだと思えます。程よく濃い目に仕上げ、タレが絡むように片栗粉を使用しました。また今年度だけで6回練習し、同じ班員で取り組んだことで、連携もより高まりました。次年度も連戦に向けて野外炊事能力の維持・向上に努めていきます。

連隊は、演習場整備の場を活用して令和7年11月11日、北富士演習場において令和7年度炊事競技会を実施した。競技要領は、過去にテレビで放送された「料理の鉄人」方式。数日前に示された食材に基づき各中隊ごとに自由にメニューを決定し、競技場で調理して勝敗を決する要領で実施した。そのため単なる調理技術のみならず、献立作

成、作業工程、衛生管理、そして炊事班の連携が重要となった。

【炊事競技会を終えて】優勝できたのは味の濃さに徹底して向き合ったからだと思えます。程よく濃い目に仕上げ、タレが絡むように片栗粉を使用しました。また今年度だけで6回練習し、同じ班員で取り組んだことで、連携もより高まりました。次年度も連戦に向けて野外炊事能力の維持・向上に努めていきます。



34普連

任務を成し得る指導者を育成
突入小隊指導者集合訓練

第34普通科連隊は11月4日から12月12日までの間、板妻駐屯地、朝霞訓練場及び東富士演習場において、突入小隊指導者集合訓練を担当・実施した。

本訓練は住民混在下の市街地において、敵特殊部隊等が立てこもる建物

を制圧する任務を成し得る小隊長及び分隊長等の指導者の育成を目的に行われた。

1師団各部隊から選抜された隊員が参加して行われた本訓練では、戦術、至近距離射撃、市街地戦闘、行動訓練と段階を踏んで演練した。

終盤には総合訓練を実施し、想定付与に基づき見積・計画の作成、市街地までの移動、建物への突入から制圧までの一連の行動を演練（写真）し、各隊員はこれまでの積み上げた訓練成果を遺憾なく発揮して任務を完遂し、本訓練の目的を達成した。

円滑な大会運営に寄与

市町対抗駅伝を支援

34普連は12月6日、静岡市内において実施された「第26回静岡県市町対抗駅伝競走大会」に協力した。

本大会は、静岡県庁をスタートし草薙陸上競技場をフィニッシュとして42・195キロ、全12区間を小学生から一般の各選手が標をつなぐ恒例大会であり、市の部25チーム、町の部12チームが参加し静岡市内を激走した。



協力部隊は大会役員の輸送（写真）及び救護補助を実施して円滑な大会運営に寄与するとともに、自衛隊への理解と信頼感の醸成を図り任務を終了した。

目指すは部隊格闘指導官
連隊格闘特級練成訓練

34普連は9月24日から11月28日までの間、板妻駐屯地において連隊格闘特級練成訓練を実施した。

本訓練は師団格闘集合教育「部隊格闘指導官」参加予定者に対して格闘特級練成及び検定を実施し、近接戦闘能力の向上を図ることを目的に行われた。

参加者は格闘指導官の資格を保有する指導部の指導を受けながら徒手及び武器使用による基本から応用技術、戦術格闘の練度向上に励んだ。

訓練終盤における特級検定では検定項目に基づき、これまで培った格闘技術をすべて発揮して全力で挑んでいた。



相手を倒し関節技を決める隊員

1後支連

八丈島で育まれた絆
島民とともに歩んだ災害派遣の日々

台風22号・23号により八丈島の生活に大きな影響が及ぶ中、連隊は東京都からの災害派遣要請を10月11日に受け、直ちに八丈島における活動を開始した。給水、給食、物資輸送及び加水・入浴支援と任務は多岐にわたったが、その根底には「島民の暮らしを守り抜く」という強い思いがあった。



島民の方の花道をハイタッチを交わしながら進む隊員

八丈島に到着した派遣部隊を最初に迎えたのは、疲れが見える中にも「来てくれてありがとう」と語りかける島民の温かい言葉だった。

隊員はそこで改めて「この島のために必ずやり遂げる」という決意を固くした。



調理場を見学する地元児童



入浴後の子供たちとのふれあい

給食支援が始まると、島民との距離は一気に縮まった。炊事車の前で子どもたちが「今日のメニューは？」と声をかけ、温食を受け取った家族が「本当に助かります」と深々と頭を下げる姿があった。支援を続けるうち、島民と隊員の笑顔が並ぶ場面は日常となり、互いの名前まで覚えるほどの交流も生まれた。

今回の入浴支援は町営温泉「ふれあいの湯」と連携した加水・入浴支援という、自衛隊として初の取り組みとなった。

施設では「やっと湯船につかれて癒されるよ」と微笑む方、入浴を終え

た子どもが隊員に向かって「また明日来るね」と手を振る姿には、支援を越えた深い信頼が育まれていた。

11月16日に行われた「感謝のセレモニー」では、島民が作る花道の中を幼稚園児から手渡された花束を手にした生活支援隊長を先頭に、隊員は一人ひとり島民の方とハイタッチを交わしながら進んだ。

目に涙を浮かべ「いなくなるのは寂しい」「次は旅行で来てね」と話す多くの島民の方との別れを惜しむ時間は、短期間とは思えない濃く深い交流があった証だった。

八丈島での35日間、隊員と島民が支え合いながら歩んだ日々は、災害派遣活動の垣根を超え、確かな絆と信頼を築く時間となった。任務は完遂したが、この島で築かれた思い出とつながりは、隊員一人ひとりの胸に、これからも深く刻まれ続ていく。

領域横断作戦下における対処能力を確認

1整大・補給隊が総力で任務完遂



故障車両の回収(1整大)



燃料交付を行う(補給隊)

連隊は11月23日から27日までの間、相馬原演習場において令和7年度連隊検閲を実施した。

本検閲は「情勢の推移に基づく指揮幕僚活動」「領域横断作戦下における部隊の基本的行動」及び「同作戦下における隊員の基礎的動作」の3点を主要演練項目として実施された。状況が刻々と変化する想定のもと、的確な状況判断と迅速な意思決定が求められる緊張感あふれる内容となった。

受閲部隊である第1整備大隊及び補給隊は、各部隊長の一丸となって任務に邁進。飽くなき向上心と強い責任感を胸に、日々の練成成果を遺憾なく発揮した。

今回の検閲では通常の野外行動に加え、ISRT（情報収集・監視・偵察・目標捕捉）環境下や

住民混在地域を想定した状況が付与され、複雑化する戦場環境における即応力と的確な対処能力が厳しく確認された。隊員たちは相互に連携を密にし、あらゆる状況に冷静かつ確実に対応し、検閲を完遂した。多くの参加隊員から「限られた時間の中で正確な判断と行動が求められ、非常に緊張感のある検閲だった」との声が聞かれた。

1 高大

死力を尽くして襷を繋げ！
体力検定競技会（駅伝の部）

第1高射特科大隊は12月5日、駒門駐屯地内に於いて、自衛官として必要な基礎体力の向上、隊員の士気の高揚及び部隊



各小隊の名誉を懸けて一斉にスタート



部隊の誇りを繋ぐ襷

の団結の強化を図る目的で「令和7年度体力検定競技会（駅伝の部）」を実施した。本競技会は各中隊の建制を保持した各小隊チーム（小隊長選抜3名、統裁部が統制するくじ引きによる抽選2名）の計5名で編成された、各中隊

長選抜チーム、大隊本部チーム（大隊長、各主任幕僚）及び高射直接支援隊チームの計12チームの中隊対抗駅伝方式で行われ、駅伝コース（1人3km）をチーム5名で襷を繋ぎ順位を決定した。本競技会に向けて各中隊は、年度当初から訓練の間隙をぬって時間走等を計画的に実施し、隊員の体力向上を図った。また全チームが襷を繋ぐとともに、全員が最後まで諦めることなく走り切り、練成の成果を遺憾なく発揮した。結果は接戦の末、高射中隊が見事優勝の栄誉を勝ち取った。

訓練所感

高射中隊
天野3曹

まだ早く走れる



全高射中隊の体力係として、中隊隊員の基礎体力の状況に係る分析及び間稽古時の練成計画の企

画及び指導を担当する天野3曹（本競技会の第1位チーム）を紹介。競技会に参加しての感想

競技会を通じて、日頃の練成成果を発揮するとともに、中隊の団結を強く感じました。区間（タ

低体力者へのトレーニング指導を引き続き行い、基礎体力及び個々の任務遂行能力の向上を促して、中隊の任務達成に貢献したいと考えています。

Q 今後の目標は？

低体力者へのトレーニング指導を引き続き行い、基礎体力及び個々の任務遂行能力の向上を促して、中隊の任務達成に貢献したいと考えています。

1 施大

令和7年度第4次大隊訓練
第2中隊及び渡河器材小隊が受閲



O7式機動支援橋架設の様子

第1施設大隊は10月19日から28日までの間、朝霞訓練場において令和7年度第4次大隊訓練で第2中隊及び渡河器材小隊の検閲を実施した。

本訓練では第2中隊が施設防護に任ずる施設中隊の行動、渡河器材小隊は、国民保護支援及び施設防護及びに任ずる渡河器材小隊の行動を検閲項目として、これまでの教育訓練の成果を遺憾なく発揮し、首都防衛に係る任務を完遂した。

第2中隊は施設防護のための障害構成、陣地構築をはじめ、不審者対応、ドローン対処、襲撃対処のため、実戦的な戦闘予行を反復して実施するとともに、第2中隊長要望事項「前向き」を具現し、どんな状況においても、士気高く前向きに訓練を遂行した。

渡河器材小隊は小隊長要望事項である「戦闘要望事項である「戦闘・施設基礎動作を確行せよ」「自ら考え行動せよ」の下、国民保護支援を想定したO7式機動支援橋の架設を実施するとともに、架設後はジェンダー等に配慮しつつ、民間人の退避誘導を行った。

また国民保護支援任務完遂後は、第2中隊とともに、施設防護や即応対処部隊としての行動を行い、任務を完遂した。渡河器材小隊の優秀隊員として表彰された下村

3曹は「小隊長を核心に、小隊一丸となって任務達成することができました。現状のレベルに甘んじることなく、日本一の渡河器材小隊を目指して、日々精進します」と力強くコメントした。

今後第1施設大隊は隊員一丸となって、師団任務完遂のため奮闘していく。優秀隊員を受賞した下村3曹



優秀隊員を受賞した下村3曹

1 飛

1 普連とより実戦的な空路潜入訓練



飛び降りの高さを維持し隊員を迅速に降下させる



煙幕の中、目的地に進入する

第1飛行隊は10月5日から8日までの間、東富士演習場市街地訓練場において、第1普通科連隊と協同し空路潜入訓練を実施した。本訓練は陰密性を保持しつつ敵の攻撃を回避し、短時間で隊員を潜入させる能力の向上を目的として行われたものであり、ヘリコプターからの降下を伴う実戦的な内容で実施した。

6月以降、訓練検閲に向けて段階的に練成を重ねてきた成果を踏まえ、今回は第1普通科連隊の地上からの火力支援および煙幕支援を受けながら、建物屋上へ迅速に進出し、隊員を降下させた後、速やかに離脱する一連の行動を反復訓練した。参加した隊員は「煙幕下では地上との距離の把握が難しく、パイロットと連携しながら普通科隊員の降下のタイミングを判断することに苦慮した。しかし実戦的な環境で訓練を重ねることで課題が明確となった。今後の練成に生かしていきたい」と述べ今後への意欲を示した。

1 飛は師団唯一の航空科部隊として、今後も各部隊との連携を強化し、練度向上に努めていく。

1 音

令和7年度自衛隊音楽まつり
第1師団らっぱ隊と共に参加



第1音楽隊は11月14日、日本武道館にて開催された令和7年度自衛隊音楽まつりにらっぱ隊と共に参加した。（写真）本音楽まつりは、自衛隊記念日の行事の一環として毎年開催されており、陸・海・空自衛隊音楽隊によるドリル演奏を中心に、自衛隊の多様な活動を広く紹介する音楽の祭典である。音楽まつりで師団音楽

隊が第1師団らっぱ隊と出演するのは初であり、防衛大学校儀仗隊、自衛隊高等工学校ドリル部、自衛太鼓、ゲストバンドとして米海兵隊第3機動展開部隊音楽隊等、様々な出演部隊と共にステージを華々しく飾った。第1師団らっぱ隊は師団隷下各部隊から選抜され、8月から約3カ月をかけて練度を向上させ本ステージに臨んだ。

音楽隊とらっぱ隊による迫力ある演奏、統率された挙動、そして曲中では「この国は」を歌唱し、自衛隊の力強さを表現、会場からは大きな歓声と喝采を受け第1師団の存在を示した。

今回のらっぱ隊の演奏は大きく話題となり、観客のみならず参加した他部隊隊員からも「感動した、また次回も見たい」等の感動の声をいただいた。

今後も第1師団らっぱ隊との共演は予定されており、聴衆に感動を届け続けたい。



**偵察中隊
内田3曹** 写真⑥

全てが初経験であり、日頃感じることのない緊張感の中、日々、集中し

訓練所感 自衛隊音楽まつり

11月13日から15日までの間、日本武道館において開催された、令和7年度自衛隊音楽まつりに1

度自衛隊音楽まつりに1偵戦大から2名の隊員が参加した。この2名の隊員は師団選考会を勝ち抜き、約1カ月にわたる厳しい練成訓練を乗り越え、夢の部隊へと立った。コメントを紹介する。

本管中隊 平江士長

 写真⑥

初舞台が日本武道館、毎日が緊張と不安の日々でしたが、多くの方の激励、そして先輩らっぱ手からの言葉「拘れ」を胸に練成し、本番では最高の演奏を届けられることができ、嬉しく思います。

埼玉県自衛隊殉職隊員追悼式 儀じょう隊を編成し任務を完遂



追悼式終了後、駐屯地司令から2名の隊員が褒章を受けた。(写真⑤)

また練成期間終盤には、東部方面警務隊の情熱を持った技術支援のもと、細部の動作まで習熟させ、追悼式における任務の完遂に務めた。

追悼式終了後、駐屯地司令から2名の隊員が褒章を受けた。(写真⑤)

1偵戦大

第1偵察戦團 職隊員追悼式に参加した。大隊は、10月3日に朝霞駐屯地において実施された令和7年度埼玉県自衛隊殉

職隊員追悼式に参加した。大隊は、10月3日に朝霞駐屯地において実施された令和7年度埼玉県自衛隊殉職隊員追悼式に参加した。大隊は、10月3日に朝霞駐屯地において実施された令和7年度埼玉県自衛隊殉職隊員追悼式に参加した。

を捧げた。(写真⑤) 大隊は9月24日から儀じょう隊の練成を開始した。初任務のため若干の戸惑いが生じたものの、指導部及び儀じょう隊員は積極的に訓練を実施した。

1通大

八丈島災害派遣任務を完遂

10月に発生した台風22号及び23号による被害発生に伴い、大隊は約1か月にわたり、通信支援隊を派遣し主に第1師団司令部、東京都庁、八丈



派遣前の通信器材の点検(練馬)



支援物資を運搬(八丈島)



システム通信を構成(八丈島)



派遣準備完了(練馬)



情報収集する師団L0を常にサポート(東京都庁)

1特防

米陸軍CBR学校での訓練

実剤訓練施設での実戦的訓練

第1特殊武器防護隊は10月14日から17日までの間、米陸軍CBRN学校(米国ミズーリ州)の実剤訓練施設(CDTF)において令和7年度米国の訓練に、1特防から6名の隊員が参加した。



本訓練は化学科部隊のCBRN対処能力の向上を図るとともに、米陸軍の有毒化学剤対処に関する最新の動向を確認した。国内では実施困難な実剤の有毒化学剤を使用した市街地等の状況下の偵察除染訓練を通じ、日頃の訓練が実剤にも対処可能であることを確認した。訓練に参加した浅野3曹は「今回得た貴重な知



1師付

統率方針に「一致団結」

第30代付隊長に辻3佐が着任

第1師団司令部付隊長は、12月1日に練馬駐屯地に就任した。思いを一人を抱えることなく迷ったらずに相談、報告してほしい」と隊員たちに語りかけた。

着任当日、隊舎正面玄関において訓練幹部、先任上級曹長、小隊長及び部課官室の先任准曹が出迎え、記念撮影をしたのち、練武館において着任行事が行われた。着任にあたり隊長は、統率方針に「一致団結」を掲げた。その意味するところは、付隊は様々な職種が集合体、言い換えれば家族のような存在であり各部署がそれぞれの任務に基づき勤務している。その中で、同僚と先輩・後輩が助け合い「一致団結」して任務を完遂したいとの思いからである。要望事項については次の二点を要望した。

一点目は「家族を含め、新に辻隊長のもと、様々な悩み等が皆それぞれある、そういった辛い邁進を続けてゆく。



着任の辞を述べる辻3佐

頭号

清談

「美しく咲く花の陰には隠れた根の力がある」

第1後方支援連隊長
1等陸佐 後川 裕一

令和7年3月17日付で、第1後方支援連隊長に就任した後川1佐です。部隊の紹介を兼ねて、2つの観点から思いを述べさせていただきます。

1つ目は、要望事項に関してです。後方支援連隊は、補給、整備、輸送、衛生等の機能別の6コ単位からなり、東京都、埼玉県、静岡県にある5コ駐屯地に分散配置されています。そこに様々な知識や技能、経験を持つ10

を超える職種の隊員が勤務しており、一言でいうと多様性に富む部隊です。多様なバックグラウンドは、共通の目標を持ち同じ方向に進む組織にとって強みになることから「力の結集」を要望しました。実際に、隊員が持てる力を結集することで新たな発想や創意工夫が生まれ、活き活きと躍動する機会が多々あり、そのような場面に触れると頼もしくかつ嬉しく思います。

また兵站・衛生の分野は、連隊だけでクロージングすることは少なく、関係機関等との連携が必要不可欠です。その視点でも部内外の力を結集して参りますので、当部隊に対するご支援・ご協力をお願いいたします。

後方支援連隊は、師団各部隊を支える存在です。第1師団の任務達成という大輪の花を咲かせる根のような存在となることに誇りを持ち一丸となって邁進して参ります。



最優先
上級曹長
頭
COMMAND SERGEANT MAJOR

「基本基礎」
第32普通科連隊
准陸尉 橋場 寿則

令和5年8月1日付で第32普通科連隊第7代最優先上級曹長を拝命しました橋場准尉です。

「基本基礎」とは任務

本基礎力の上にしか築けません。「これぐらいでいいだろう」「見たことある」「知っている」「やったことある」という気持ちで任務遂行上重大な事故につながりかねない環境だからこそ一つひとつの動作に意味があり、重みがあります。

だからこそ、繰り返し訓練を通じて基礎を体得し、それを確実に身に付ける努力を怠ってはいけないと思います。

「基本基礎」は日々の積み重ね、武道の教え「守破離」に通じるものがあります。

「守」は教える忠実に守る段階。

各種基本動作の反復演練により本質・理合を身に

頭号 男子
The Man of 1st Division

「苦難上等」
第1通信大隊
平戸 仁 3等陸曹



青森県出身、20歳。令和4年に入隊し、現在は第1通信大隊第1中隊（練馬駐屯地）で、システム通信手として勤務している平戸3曹が現在の思いのたけを話してくれました。

入隊の動機は、「一日でも早く自衛官になりたい」と思ったからです。早く現場で働きたい、その一心でした。

現在は通信機材の整備や訓練準備などを行っています。通信は人と人、部隊と部隊をつなぐ大切な役割だと思っています。

自分の仕事は「つながり」を支えていると感じられるところが魅力です。

学生時代は、小・中学

力で取り組むことを心掛けています。

休日は最近ホットヨガを始めました。体幹トレーニングにもなりますし、しっかり汗をかけるので気持ちがいいです。その後に食べるラーメンは最高です。

趣味は筋トレとダーツです。筋トレは「もっとたくましくなりたい」と思って始めました。ダーツは兄の影響です。また、最近は読書にもはまっています。一冊読むごとに少しずつ賢くなっている気がして、それが楽しいです。

これからも「やる気・元気・全力」で頑張っていきます。



「笑顔で楽しく」
第1音楽隊
高橋 理織 陸士長



全国の模範たる近衛連隊の最優先上級曹長として日々精進し、「指揮官の補佐」及び「隊員の育成」と職務に邁進していきます。

今月のフェアレディーは「人前で演奏するときには、笑顔で楽しく」そんな言葉がびったり、自衛隊に入隊したばかりですが、すでに立派な音楽隊員として活躍中の高橋士長です。

はじめまして。私は第1音楽隊に所属している、陸士長 高橋 理織です。大阪府出身、今年24歳になりました。令和6年に自衛隊に入隊して、今は音楽隊でトランペットを担当しています。

入隊の同期は、私の憧れの先輩が自衛隊の音楽隊で活動している姿を見たのがきっかけです。小学校4年生のときに鼓笛隊でトランペットを始め

中でした。中学・高校でも吹奏楽部に所属して、放課後はほとんど毎日練習していました。あと、中学1年からは合気道も続けていて、今は初段を持っています。

今は式典やイベントでの派遣演奏に向けた練習が主な業務です。演奏はもちろん楽しいですが、それ以上に「自衛隊を知ってもらおう」広報の役割を担っているという実感があります。

特に印象に残っているのが、千葉県君津市での演奏会で、終演後にお客さんから「感動した」「心に響いた」といった言葉をたくさんいただいたので、本当にうれしかったです。

自分たちの音がちゃんと届いたんだなって思いました。

演奏するときには私が大事にしているのは、「笑顔で楽しく」です。楽器を通して、少しでも聴いてくれる人の心を明るくできたらいいなと思っています。

オフの日はアニメを観たり、アイドルの動画を見たりして過ごしています。アニメは妹にオススメされることが多いんですが、毎回ちゃんとハマっちゃいます。

好きなトランペットを仕事にできて、本当に幸せです。これからもたくさんの方に音楽と笑顔を届けられるように、がんばっていききたいと思っています。

フォロワー募集
師団活動状況
イベント情報
発信しています